

【成果報告書 1 : 海洋教育のデザイン】

*学校名 珊瑚舎スコーレ夜間中学校

*活動テーマ名 境界(地域、文化、世代、学校種)を越えた海洋教育連携カリキュラムデザイン

*活動のねらい

珊瑚舎スコーレ夜間中学校の生徒の平均年齢は約78歳です。ほとんどの方が沖縄戦の戦中戦後の混乱と貧困のため就学の機会を失い、働きづめの人生を生きてきました。いつか学校に通いたいという夢を抱き続けて生きてきました。珊瑚舎スコーレ夜間中学校はそのような方々と学校で学ぶことの喜びを分かち合いたいという願いの下、2004年4月に開設された学び場です。

学校で学ぶ喜びとはクラスメートとともに「知ること、考えること、表現すること、交流すること」により自身の変容を手にする喜びであると考えています。今回のプロジェクトは生徒にとって学校で学ぶということとはあまり結びつかない「海」が「目から鱗が落ちる」ような学びの体験となるに違いないと考え、プログラムを作りました。また、東京大学教育学部附属中等学校の生徒、宮古島市立池間小中学校の児童・生徒との連携と交流は高齢の夜間中学校の生徒の方々にとっては大きな刺激となり、学ぶ喜びをさらに充実させるものと考えました。その効果は「年間活動終了後の生徒の感想」にある通りです。

*活動の概要

・社会科 「海と沖縄—古琉球を中心に」

・「海に囲まれた沖縄の地理と自然・気候」 2時間

・「人々を魅了する沖縄文化」 2時間

・沖縄の歴史1 「港川人と貝の道」 2時間

・沖縄の歴史2 「貝塚時代からグスク時代へ」 2時間

・沖縄の歴史3 「アジアの国々との交易で栄えた琉球王国」 2時間

・日本語(国語)科 「海と戦争—沖縄を考える」

・レオ・レオー二作/絵「スイミー」を読む 8時間

・大石 真/作 狩野富貴子/絵「貝がら」を読む 3時間

・向田邦子作 「字のないはがき」を読む 2時間

・演劇鑑賞及び感想発表

作・演出 鄭義信 「海のこどもたち」 感想発表 1時間

・琉歌講座 5時間

●連携と交流 3校(東大附属中等学校、宮古島市立池間小中学校 珊瑚舎スコーレ夜間中学校)交流

●フィールドワーク (珊瑚舎スコーレ初等部、中等部、高等部の児童・生徒と合同で実施)

・海のフィールドワークⅠ(6月23日 沖縄島中部の戦跡など)

・海のフィールドワークⅡ(11月4日 恩納村屋嘉田潟原のリーフ)

***実施内容**

社会科 授業計画・記録 1

対象学年 夜間中学 3 学年合同

単元 「海に囲まれた沖縄の地理と自然・気候」

目標 わたしたちの住む沖縄と自然的環境について、その概要をつかむ。

授業計画 第 1 時 琉球列島のなりたちと海洋環境 第 2 時 沖縄の気候と県花・県木・県鳥・県魚

授業記録

授業内容	生徒の感想(つぶやき)
<p>第 1 時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○九州から台湾に弓状に連なる琉球列島 <ul style="list-style-type: none"> ・琉球弧 ○琉球列島の誕生 <ul style="list-style-type: none"> ・氷河時代を経て、1 万 2000 年前にできる ・東アジアの東側 ・太平洋・東シナ海に囲まれた島々 ・黒潮の流れ ○沖縄県の島の数と有人島 <ul style="list-style-type: none"> ・島の数は 160、有人島は 41 ○沖縄県の人口 <ul style="list-style-type: none"> ・約 143 万人 ・11 市 11 町 19 村 <p>第 2 時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○亜熱帯気候とは <ul style="list-style-type: none"> ・高温多湿 ○雪は降ったことはあるの? <ul style="list-style-type: none"> ・1977 年(久米島)、2017 年(那覇市) ○沖縄特有の動植物の数々 <ul style="list-style-type: none"> ・ノグチゲラ、タカサゴヤグラなど ○沖縄県の花・木・鳥・魚 <ul style="list-style-type: none"> ・花—デイゴ 木—リュウキュウマツ ・鳥—ノグチゲラ 魚—グルクン ○沖縄の国立公園 <ul style="list-style-type: none"> ・西表・石垣国立公園 ・慶良間諸島国立公園 	<ul style="list-style-type: none"> ○沖縄がたくさん島からできていることは知っていたが、それが 160 だったので驚いた。そんなにたくさんの島があるとは、ちょっとびっくりした。 ○今から 100 万年前は中国とつながっていたとはビックリした。海底火山の爆発などで今の形になったという。 ○沖縄県の人口は全国で 25 番目だった。もっと少ない県がたくさんあった。 ○人口が増えているのは 7 県、自然増の県は 3 県で沖縄県も入っていた。 ○沖縄が暑いのは「亜熱帯」だから。生き物にとってはくらしやすい。温帯だと春夏秋冬がはっきりする。 ○「雪」といっても「みぞれ」だった。あられは雪ではなかった。 ○40 年ぶりの雪だった。やっぱり沖縄では雪はなかなか降らない。 ○2 つとも海がきれいだ。国立公園になってよかった。

社会科 授業計画・記録 2

対象学年 夜間中学 3 学年合同 単元 人々を魅了する沖縄文化

目標 日本の他の地域とは異なる沖縄文化の魅力とその由来の概要をつかむ。

授業計画 第 1 時 沖縄の世界文化遺産 第 2 時 沖縄の人間国宝、沖縄の食文化

授業記録

内容	生徒の感想(つぶやき)
<p>第 1 時</p> <p>○世界遺産とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界中の宝物——1000 件以上 ・古い立派な建物、珍しい生き物のすみかなど <p>○日本の世界遺産は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化遺産——16 ヶ所 ・自然遺産—— 4 ヶ所 <p>○沖縄の世界遺産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首里城とその関連遺産(9 ヶ所) ・自然遺産候補地の西表島・やんばる地区 <p>第 2 時</p> <p>○沖縄の人間国宝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに 12 人認定 ・読谷山花織(インドが起源) 三線(中国) 組踊(日本の能、歌舞伎) ・東南アジア・島々に伝わる多彩な文化を取り入れる <p>○沖縄の食文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医食同源——食は薬物(クスイモン) ・良質の蛋白質(豚肉)と野菜(島野菜、野草) ・「チャンプルー」はインドネシアから?! <p>○沖縄料理と昆布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昆布の消費量 ・豚肉と昆布の相性のよさ ・味覚的、栄養価的に高い価値 <p>○沖縄で取れない昆布はどこから?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮・「貝の道」で北海道から 	<p>○世界にはたくさんの世界遺産がある。日本は 20 ヶ所だが多い方だと思った。</p> <p>○沖縄の世界遺産は首里城だけかと思っていた。行っていないところもあるので行ってみたい。</p> <p>○イリオモテヤマネコやヤンバルクイナも世界遺産になるといいなと思う。</p> <p>○沖縄から 12 人も出ていた。1 人も出ていない県もあるようなので、沖縄県は素晴らしい。</p> <p>○沖縄にはいろんな国からいろんな文化が伝わってきている。海に囲まれているからだ。昔の人はそれをうまく取り入れてきた。</p> <p>○昆布がどこで取れるのか考えたことがなかった。北海道だった。沖縄はモズクがたくさん採れる。モズクは北海道に行っているのか。</p>

社会科 授業計画・記録3

対象学年 夜間中学3学年合同 単元 琉球の歴史 小単元 港川人と貝の道

目標 港川人の発見の様子や「貝の道」で本土との交流があったことを知る。

授業計画 第1時 旧石器時代と港川人の発見 第2時 海の恵みを中心とした社会と「貝の道」

授業記録

授業内容	生徒の感想(つぶやき)
<p>第1時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「港川人」の発見 <ul style="list-style-type: none"> ・2万2000年前の新人の人骨 ・旧石器人の全身像 ・1967年具志頭村湊川で大山盛保氏が発見 ・弱アルカリ性の琉球石灰岩と湊川フィッシュャー遺跡 ・日本の化石人骨の9割は沖縄で発見 ○港川人の復元想像図 <ul style="list-style-type: none"> ・修正された復元図 ・従来より顎のほっそりした面立ち ○「山下町第一洞人」の発見 <ul style="list-style-type: none"> ・3万6000年前の女の子の人骨 ・2010年度から本格的調査 <p>第2時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「貝塚」とは? <ul style="list-style-type: none"> ・古代人が食べた木の実や動物、魚や貝などの残滓など ・豊富な海の幸(魚や貝)を食べ、生活する ○木綿原遺跡(貝塚時代後期、読谷村) <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄には無い黒曜石、ヒスイの出土 ○「貝の道」で運ばれた大量の貝 <ul style="list-style-type: none"> ・貝輪の出土の分布――黒潮に乗って五島列島から山陰へは対馬海流で ・「霊力」が宿る南方産巻貝 ・北海道・礼文島でも出土 ○貨幣としても使われた貝(タカラガイ) <ul style="list-style-type: none"> ・中国最古の殷で使われた 	<ul style="list-style-type: none"> ○港川人は聞いたことがある。5人から9人分の化石人骨だった。 ○サンゴ礁はカルシウム分が多いので、骨は溶けないで残ることが分かった。 ○人間は進化するとアゴが細くなるという。固いものを食べなくなったから。 ○山下町第一洞人は港川人より古いということが分かった。女の子だという。ビックリした。 ○沖縄は海にかこまれていてから貝や魚がたくさん採れて、食べ物に不自由しなかったと思う。 ○2000km離れた北海道からも「貝輪」が見つかった。貝の道はすごい。 ○港川人が出た所や木綿原遺跡とかは自分では行けませんから団体で行ったらどうか。 ○お金に関係する漢字に「貝」が使われていることか分かった。(財、貯など)

社会科 授業計画・記録4

対象学年 夜間中学3 学年合同

単元 琉球の歴史 小単元 貝塚時代からグスク時代へ

目標 海の恵みの時代から農耕社会へ移行し、社会が大きく変化したことを中山世鑑をもとにつかむ。

授業計画 第1時「中山世鑑」が伝える神話の王統 第2時「中山世鑑」が伝える舜天王統と英祖王統

授業記録

授業内容	生徒の感想(つぶやき)
<p>第1時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○貝塚時代からグスク時代へ <ul style="list-style-type: none"> ・11世紀末 ・農耕を主体とした社会へ ・変化したリーダーの資質 ○神話の王統 <ul style="list-style-type: none"> ・アマミキヨ(阿摩美久) ・首里王府最初の歴史書「中山世鑑」 ○アマミキヨとは? <ul style="list-style-type: none"> ・天帝の命を受けて下界へ ・三男二女に身分を与える ・アマーー遠い ミーー海 キョーー人を表すともいう <p>第2時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「源為朝の子伝説」の舜天王統 <ul style="list-style-type: none"> ・人望を集めていた浦添按司・尊敦 ・琉球最初の国王・舜天を名乗る ○「日流同祖」とは? <ul style="list-style-type: none"> ・薩摩藩・島津氏も源氏の子孫 ・琉球国王・舜天の父も源氏 ○地名の起こりの言い伝え <ul style="list-style-type: none"> ・天に運を任せてたどり着いた所が「運天港」 ・「為朝の帰りを待ちわびた」所が「牧港」 ○「太陽子伝説」の英祖王統 <ul style="list-style-type: none"> ・太陽の子は「ていだこ」 ・奄美大島を治めた(おもろに謳われる) ・浦添ようどれに眠る 	<ul style="list-style-type: none"> ○稲作遺跡が発見されていないという。いったいつ頃から米作りは始まったのだろう。 ○アマミキヨは本当にどんな人だろう。やはり、天から降りてきたのではなく、南の海の方からやってきた人だと思う。 ○小さな島・久高島に上陸したのは様子を見るため、用心のためだと思う。 ○攻めてきた薩摩に従うために同じ源氏にしたのは「苦肉の策」だというのが、意味がまだよくわからない。 ○浦添の牧港テラブのガマはぜひ見たい。運天、牧港という名前の付け方がおもしろいと思った。 ○「太陽の子」だという伝説はすごい。 ○英祖は極楽寺を建てたりして、沖縄に仏教を初めて取り入れた人だった。

社会科 授業計画・記録5

対象学年 夜間中学3学年合同

単元 琉球の歴史 小単元 「アジアの国々との交易で栄えた琉球王国」

目標 ・琉球が統一され、中国をはじめ広く海外に交易を求めていった様子を知る。

授業計画 第1時「中山世鑑」が伝える察度王統 第2時「中山世鑑」が伝える第一尚氏王統

授業記録

授業内容	生徒の感想(つぶやき)
<p>第1時</p> <p>○羽衣伝説の察度王統</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天女から生まれた察度 ・中山王都を首里に移す ・琉球は三山分立の状態 <p>○中国との交易を始める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国皇帝から「琉球国王」を任ぜられる ・琉球の主な交易物は「硫黄」と「馬」 ・中国側——鉄器、陶器、織物 <p>○中国人村ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久米三十六姓の移住 ・中国文化の積極的進取 	<p>○水浴びをしていた天女は中国か朝鮮の女性ではないかと思った。</p> <p>○この頃、「北山」「中山」「南山」の3つに分かれたことが分かった。</p> <p>○貿易のきっかけが馬と硫黄だったなんてとてもびっくりした。</p> <p>○察度王は初めて中国の王様から「琉球王」呼ばれたそうだ。</p>
<p>第2時</p> <p>○第一尚氏王朝の誕生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐敷按司・尚巴志が台頭 ・1429年、巴志は三山を統一 ・那覇港の整備、拡張 ・首里城の整備 <p>○六代目尚泰久の国王就任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広く海外貿易を行う ・護佐丸・阿麻和利の乱 <p>○仏教を盛んにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和な世の中の実現 ・十幾つものお寺の建立 <p>○「万国津梁の鐘」の鑄造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津梁とは「架け橋」、「南海の良い場所に位置する琉球は、万国の架け橋になる。」 	<p>○巴志が鉄で農具を作って農民に上げ、みんなに頼られたのは頭がよいと思った。察度と似ている。</p> <p>○護佐丸・阿麻和利の乱ではどちらが悪者なのか分からない。尚泰久の策略だという説もあるようで、ますます分からなくなった。</p> <p>○「世界の架け橋となる」という泰久の気持ちはすばらしい。海に囲まれた琉球だからこそその言葉だと思った。</p>

日本語(国語)科 授業計画・記録1

対象学年 夜間中学1年生

単元 「スイミー」を読み、感想文を書く(全8時間)

教材 「スイミー」(レオ＝レオニ 作・絵 谷川俊太郎 訳)

- 目標
- ・本を読んだあとの感想や考えを文章にまとめる
 - ・文章を書く際に心がけることを理解する
 - ・音読と推敲の大切さを知る
 - ・原稿用紙の使い方を知る

授業計画 ①1時 音読

②2時 音読。あらすじについて話し合い、感想を言葉で発表する

③3時 セリフの部分をスイミー役と小さな赤い魚達の役に分かれて音読
主人公スイミーはどんな魚か、行動や心の動きについて話し合う

④4時 海の中の様子を中心に話し合い、感想を話し合う
(珊瑚の島や海の生物の写真をカラーで見せる)

⑤5、6時 「スイミー」を読んで、良かったこと、心に残ったことなどについて感想文
を書く(ノートに下書き)

⑥7時 原稿用紙の使い方を説明、感想文の推敲、清書

⑦8時 感想文を一人ずつ前に出て発表、発表ごとに感想を述べ合う

授業記録

- ・範読、一斉読みして、物語のあらすじは、ほとんどの生徒が理解できたようだ。
- ・セリフの部分をスイミー役と小さな赤い魚たちの役に分かれて音読すると、どちらのセリフか区別
のつかない生徒もいた。
- ・きょうだいで、みんな赤いのに、どうしてスイミーだけ黒いのかという質問が出た。それについ
て、突然変異で1ぴきだけ黒くなったという意見や、最後まで読むと分かるが、みんなの目になる
ためにスイミーだけ黒いという意見が出た。
- ・「まぐろが、すごい、はやさで、ミサイルみたいにつっこんできた」「にじ色のゼリーのようなくら
げ」「水中ブルドーザーみたいな いせえび」「ドロップみたいな岩」などの海の中の表現が、おもし
ろい、竜宮城のように美しい、癒やされるという感想が出た。
- ・海人(ウミンチュ)をしていた生徒から、実際の海の中では、大きなマグロと小さな魚とでは生息
している水深が違うのではという意見が出た。
- ・一人ぼっちになって、こわくて、さびしくて、かなしい思いをしたスイミーに、戦争で親やきょう
だいを亡くし、一人ぼっちになってしまった自分自身を重ねて、共感を抱いている生徒もいた。
- ・海にはすばらしいものがあることを発見して元気になったスイミーが、小さな魚のきょうだいた
ちと出会い、スイミーの勇気と知恵とリーダーシップで、小さな魚たちがみんな持ち場を守り、団結

して大きな魚を追い出した結末に生徒たちは感動。スイミーに拍手を送っていた。

- ・前に出た感想文の発表は、ドキドキしているようだったが、みんなしっかり声を出していた。

〈生徒の感想文より抜粋〉

- ・私も子どもの頃、スイミーに似た体験をした。海人（ウミンチュ）をしていた頃、貝をとってくるように言われて海に潜った時、サメやエイに襲われて、こわい思いをしたことがある。だから、マグロに襲われた時のスイミーの気持ちがよく分かる。
- ・暗い海の底で一人ぼっちになったスイミーは、どんなにこわくて、さびしくて、かなしかったことか。私は、戦争中、山の中に逃げ込み、気がついた時には誰もいなくなっていて泣いた。こわくて、さびしくて、心細かったスイミーの気持ちが自分のことのように分かる。けれども、人を求めて山を出た時には、子どもながらにほっとしたのを覚えている。私はこの小さな魚に勇気と生きる知恵をもらった。
- ・一人ではできないことも、みんなで力を合わせればできることを、スイミーから教えられ、勇気づけられた。私は苦勞のたえない人生だったが、スイミーの前向きな生き方に励まされ、これからは大変なことがあっても、逃げ出さずに頑張っていきたい。
- ・スイミーは、きょうだいで一匹だけ黒くて、もしかしたらいじめられたかもしれない。赤い魚たちも黒いスイミーも分け隔てなく育ててほしい。
- ・スイミーは、きょうだいたちがみんなマグロにのみこまれてしまったという悲劇を経験したので、今度はみんなの役に立って一緒に生き延びるために必死で知恵を絞り、うんと考えたんだと思う。
- ・私だったら岩陰に隠れてじっとしていただろうが、スイミーは自分と同じ小さな魚たちを見つけ、声をかけた。一匹一匹は弱いけれど、みんなで手をつなぎ、生きる術を学び、成長していく姿はすごいと思った。生き物は、皆それぞれ役割が与えられていると思う。私もこれからは周りの人と関わりを持ちながら生きていきたい。
- ・一番心に残ったことは、スイミーがリーダーになって小さな魚たちを守ったこと。私もスイミーのようになりたい。
- ・これからは、小さな魚たちは海の中でみんな揃って、一つの家族になって、いきいきと暮らしていきましょう。
- ・スイミーのきょうだいの話は、海の中の魚の世界の出来事。私達きょうだいは田舎で細々と楽しい日々を何事もなく過ごしていたが、戦争になって逃げ場がなくなり、親、きょうだいを亡くした。その悲しさ、寂しさはひと言では言えず、たえられないほど悔しかった。なぜ私だけ残してみんな死んでしまったのか。できることなら、私も一緒に死にたかった。年月が経っても、心に受けた傷は消えない。一生、悲しみを背負って生きていくのが運命だと思う。
- ・スイミーは、一家の大黒柱みたいな頼もしい魚だと思う。自分の身近にいる子どもたちがスイミーのような行動力のある子に育ててほしいので、子どもたちに「スイミー」を読んであげたい。
- ・作者のレオ＝レオニは、1910年に生まれ、1999年に没している。この時代は、第1次世界大戦、第

2次世界大戦と二度に渡る大きな戦争があり、そのほかにも朝鮮戦争、ベトナム戦争、中東戦争、アフガニスタン戦争、湾岸戦争、イラク戦争など、戦争の多い時代であった。日本は戦後、平和を維持しており、直接戦争に加担したことはない。これは誇るべきである。平和憲法と国民の努力があったからだと思う。

日本語(国語)科 授業計画・記録 2

対象学年 夜間中学校2年生

単元名 思いを想像して読む

教材 「貝がら」 大石 真/作 狩野富貴子/絵

単元の目標

- ・ 内容の中心や場面の様子がよくわかるように音読する
- ・ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読む。

教材設定について (生徒観、教材観から)

- ・ 平仮名表記 (長音、促音、拗音・・・は・わ へ・え を・お 等々が不十分。)
- ・ 文章を読む。声に出して読む経験が、まだまだ足りない。そこで新年度スタートの教材を選ぶにあたって①長くないこと②漢字が少ないこと③言葉が平易であること等を考慮した。
- ・ 「貝がら」は、どこにでもいるような転校生が登場します。内容、量(長さ)ともにほどよく、生徒にとって「思いを想像して読む」読み物として親しめる作品である。

授業計画

- 1時 ・全文を読み感想をもつ。
- ・ 第一段落・第二段落を読み「中山君」のおかれた状況をおさえ、気持ちを想像する。
- 2時 ・第三段落を読み「中山君」の様子が分かってきた「ぼく」の気持ちを想像する。
- ・ 第四段落を読み、「中山君」が海辺の絵を描きながら絵の話をしてくれた時の様子を想像する。
- 3時 ・「中山君」から見舞いにもらった貝がらをながめている「ぼく」の気持ちを想像する。

授業記録

第1時

○範読をする。

- ・ 最後まで集中して聞く。(教材は伏せておく。見ながら聞くと、文字を追っかけるのに精一杯になり話の内容が頭に入らないことが多いので)

○ 斉読(一人ひとりのペースで)

○ 題名「貝がら」を板書し、貝がらにまつわることを話し合う。

- ・ Sさん(80代) 幼い頃、普天間に住んでいた。

8歳になるまで海とか貝がらを知らなかった。中城村にうつってから浜に出たりした。貝と貝がらのちがいを

はじめてだらけでした。

- ・ Gさん(70代) 小さい時(宮古島)。

海の近くに住んでいたの、貝や貝がらをよくとった。潮くみもさせられた。潮をバケツに入れ頭にのせて運ぶので家に着くまでつまずいてよくこぼした。もう服はびしょびしょ…………。

- ・ Oさん(80代) 家は国場(那覇市)。

目の前は海、貝や貝がらをよくとった。なつかしく思い出される。

○「四年生に進級した」に続く文のくり返しの記述に注目させ、ぼくの気持ちを理解し共感できるようにする。

- ・ 教室も、先生も、クラスの仲間も、席順も、みんな変わってしまった。
- ・ 「君の家はどこなの。」とか、「君は自転車に乗れるの。」とか、「君には兄弟がいるの。」とか
- ・ 「ぼくはちょっとはらが立ってきて。」 ぼくのセリフの部分をもぼくになったつもりで各自で練習→隣りどうしで交互に読む。
- ・ 地の文、セリフと分担して登場人物になりきって音読していく。
 - ※ 三名だけの出席だったが、事務局のMさんがサポーターに入ったので、地の文はOさんとMさん、セリフをSさんとGさんが担当した。
- ・ 慣れるに従って音読の楽しさ、心地よさを感じたようで三回もくり返し読みあった。(P2 14行まで)

第2時 P3「図工の時間が…」から

- ・ 前時の学習をふりかえって内容を確認する。
- ・ 景色を絵にした中山君に話しかけ、なまりのせいで無口だったことを知る。
- ・ なぜ中山君はしゃべらなかったのか。そのわけ→ノートに書く。
- ・ 漢字「友達」 練習する。 ※ 新入生が入り授業に活気が出ます。

第3時

- 場面の様子を思い浮かべて音読しよう。
- 登場人物、中山君のようす。ぼくのわかったこと。
- 自分だったらどうするか。わたしのはずかしかったこと。用心したこと。
 - ・ Tさん： おもったとおりのことを言う。
 - ・ Sさん； であるとおり言ったほうがわかってもらうからいい。
 - ・ Oさん； 用心する。
- 自分の好きなところを音読し、みんなに聞いてもらう。

日本語(国語)科 授業計画・記録3

対象学年 夜間中学3年生

単元 文学作品を読み、感想を話し合う(全2時間)

教材 随筆「字のないはがき」(作・向田邦子)

目標 ・ 作品を読み、登場人物の心情をつかみ、作品のテーマについて考える

- ・自分の感想や意見をまとめ、話し合う

授業計画 ①1時 範読、音読、質疑、感想

- ②2時 音読。内容、登場人物像をつかみ、感想を話し合う

授業記録

1時 範読、音読

解説や質疑について

- ・時代背景については、現在の10代の中学生には分かりにくい戦前の話だが、60代～80代の夜間中学の生徒は、よく理解していた。
- ・作品の中の父親の姿に、自分の父親の姿を重ねて、おやじはこんな「暴君」的な態度が多かったと理解していた。
- ・キャラコというのはどんな布かという質問には、生徒が戦前、流行っていた布で、下着や子供服に使われていたと話してくれた。
- ・学童疎開については、昭和19年の戦争末期から学童疎開が始まり、生徒の中にも宮崎に疎開したKさんがいて、私たちもひもじい思いや寒さを体験したという話をしてくれた。
- ・疎開した末の妹がお腹をすかしていたという状況は、沖縄ではカボチャの茎、イモの葉や茎、野生のフキの茎を食べていたという生徒の体験の話が出た。

2時 音読

感想を話し合う

- ・明治生まれの父親はそんなものだと思う。自分は小さい時から海人（ウミンチュ）として年季奉公（糸満売い）で働いてきた。父親の記憶もあまりない。母親はおみやげを持って訪ねてきたが、会えなかった。父親とは会ったことがなく、自分の父親という手ごたえを感じたかった。今、自分も父親なので、向田さんの父親の気持ちがよく分かる。
- ・自分の父親も厳しく、投げつけられてしつけられた。弟がよその子どもに叩かれた時は、相手の家に行き謝らせたことがあった。向田さんの父親のように愛情があった。
- ・乱暴で暴君のような父親が、急に子どもにやさしくなったのはなぜだろうかと思った。
- ・自分には物心ついた頃から父親の記憶がない。父親に甘えたこともないので、小さい頃、父親がいた人がうらやましかった。
- ・私は戦後生まれで、離島で生活していた。食糧難で食べ物が少なくてひもじかった。しかし、海に行くと、タコや貝や海藻をとって食べ、食糧難の時期を過ごした。
- ・学童疎開した時、ひもじい毎日だった。食事はカボチャが多く、沖縄の子ども達はよく下痢をし、便所を汚しては叱られた。戦後、戦地から帰ってきた父親は、私達にも厳しかった。

日本語(国語)科 授業計画・記録4

対象学年 夜間中学1・2・3年生

教材 観劇 「海のこどもたち」(作・演出 鄭義信)(全2時間)

内容 戦争で亡くなった少年少女たちへの祈り、今を生きる少年少女たち、そしてかつて少年少女たちだった大人たちへの明日への糧となるエールを送ることがテーマの登場人物の3人のこどもたちによって繰り広げられる無言劇である。
戦争で傷つきながらも成長し、大人になっていく3人のこどもたちを通して「あの夏、ぼくたちは大人になった」ということが描かれ、観るものに「沖縄の海」「沖縄戦」がイメージされる。

目標 演劇を鑑賞する。(子どもの頃、遊び場だった海が戦場となり、殺戮の海となる。そうして時間は流れ、現在を生きていることにそれぞれの生徒が自分の人生を重ね、これからの人生を考えるための糧となることを期待している。)

授業計画 ①1時 観劇

②2時 感想を話し合う

授業記録

- ・生徒たちは、「無言劇」という初めて見る演劇の形に興味津々であった。
- ・予想もつかない展開に引き込まれたようだった。
- ・「海が生活の身近にある」という場面設定に共感を覚える生徒が多く、感想では3年生だけでなく、1・2年生の中からも、こどもの頃の体験話が次々と出てきた。

生徒の感想

- ・構成がすごかった。次に何が出てくるか分からず、連想ゲームみたいだった。
- ・波を表す白い布が、海の怒り、おそろしさを表していると思った。
- ・海とこどもたちの単純な作品かと思っていたが、大人になるにつれて、重たい内容になった。後半の部分は無いほうがよかった。
- ・後半の戦争のところや戦争で負傷したシーンは、重く感じたが、昔のおさななじみと再会できた時のシーンは、ほろっときた。
- ・最初は三線(サンシン)を弾いていた人が、最後は津軽三味線に変わっていて、沖縄が本土復帰して、本土のものが沖縄に入ってきたのに関係しているのかと思った。
- ・沖縄も昔は平和だった。やっぱり平和が大事。
- ・劇を見て、こどもの頃、海で遊んでいたことを思い出した。毎日、海を見ていると、どれくらいの波だったら泳げるかが分かる。波の荒いところで泳ぐのが、最高に楽しかった。
- ・こどもの頃、沖縄の海は豊かだった。瀬長島ではタコがいっぱいとれた。泡瀬では貝をとった。糸満ではシャコ貝やアワビがとれた。

琉歌講座(全5回)

対象学年 夜間中学校1, 2, 3年生

教材の琉歌について

沖縄には八八八六の四句三〇音で構成される「歌」があります。琉歌と呼ばれています。今でもさかんに作られ、新聞には投稿欄もあります。授業で取り上げた作品を記載します。

第1回 琉歌3首

●潮汲みゆんすれば 月も汲み移ち わが宿のつとに なるがうれしや

(うしゆくみゆんすりば ついちんくみうついちし わがやどうぬついとに なるがうりしや)

訳：海水を汲み上げて桶に入れると水面に映っていた月も一緒に汲み上げた月がわが家のお土産になるのがうれしいよ

解説：海水は豆腐作りに使います。夜が明ける前の早朝から始めます。朝の綺麗な海水を汲むのは若い娘の仕事でした。

●月も照り美らさ 糸かめれ童 露の玉捨て 貫ちやい遊ば

(ついちんてりぢゆらさ いとうかみりわらび つゆぬたまひろてい ぬちやいあしば)

解説：月の美しさを紹介するために取り上げた琉歌です。作者はおそらくお爺さんでしょう。洒落た冗談です。

訳：月の輝きが美しい糸を捜して来なさい子どもらよ月の光に輝く夜露を拾って糸に通して遊ぼうよ

●朝飯やすまち 昼飯やきゃしゆが 晩や白波の 音が聞きゆら

(しとうみてやすまち あしばんやちゃしゆが ばんやしらなみぬ うとうがききゆら)

訳：朝飯はすませた昼ご飯はどうしようか晩はイノー(リーフ)に立つ白波の音を聞いていよう

解説：沖縄戦後は食料難。夕飯はイノーに貝などを捜しに行くため、歩きやすい引き潮になる音をじっと聞いています。

第2回 琉歌から離れて

前回紹介した豆腐作りのために海水を汲みあげるための海とは対照的に海のかなたの外国への憧れがよくわかる民謡です。

●民謡「唐船(とうしん)どーい(唐からの船がついたぞー)」

海外と盛んに交易をしていた琉球王国の頃の民謡です。喜びの気持ちが爆発するような歌です。

カチャーシーの時によく歌われます。歌詞はカチャーシーが終わるまで何番までもあります。

1. 唐船どーい さんてーまん 一散走えーならんしや ユーイヤナー

若狭町村ぬサー 瀬名波ぬタンメー ハイヤセンスル ユーイヤナー

訳：唐船が入ったよと言われても 走っていかないのは ユーイヤナー

若狭町の 瀬名波のおじいさんだよ ハイヤセンスル ユーイヤナー

2. 音に鳴響まりる 大村御殿ぬ平松 ユーイヤナー

那覇に鳴響まりるサ 久茂地ぬ這い榕樹木 ハイヤセンスル ユーイヤナー

訳：首里で有名なのは 大村御殿の平松で ユーイヤナー

那覇で有名なのは 久茂地の横に這ったかじまるだ ハイヤセンスル ユーイヤナー

3. 嘉例吉ぬ遊び 打ち晴りてからや ユーイヤナー

夜ぬ明きて太陽ぬさ 上がるまでいん ハイヤセンスル ユーイヤナー

訳：お目出度い祝宴が 盛り上がってからは ユーイヤナー
夜が明けて太陽が 上がるまでも ハイヤセンスル ユーイヤナー

前回鑑賞した沖縄戦の戦中戦後の食糧難を読んだ琉歌、さらに今回は戦後の苦しみを歌詞にして大ヒットした民謡を紹介します。

●民謡「艦砲の喰えぬくさー」 比嘉恒敏作詞・作曲(1969年)

夜間中学校の生徒は沖縄戦の話をする時など、自分たちを「艦砲の喰えぬくさー」と言います。

東大付属の生徒や池間小中の児童・生徒に交流会の時にこの民謡を紹介し、歌うことにしました。

1. 若さぬ時ね 戦争ぬ世 若さる花ん 咲ちゅーさん 家ん元祖ん 親兄弟ん 艦砲射撃ぬ
的になてい 着るむん 喰えーむん むるねーらん スティーチャー喰でい 暮らちゃんや
※うんじゅん わんにん いやーん わんにん 艦砲ぬ喰えぬくさー

(訳) 若い時には戦争ばかりで 青春の花は咲かなかった お祀りしていた先祖も親兄弟も
艦砲射撃的になって 着物も食べ物もすっかり無くなり ソテツを喰べて暮らした
※あなたも私も お前も俺も 艦砲射撃の喰い残し

2. 神ん仏ん たゆららん 畑や金網 銭ならん 家小や風ぬ うっとうばち 戦果かたみてい
すびかってい うっちえ ひっちえ むたばってい 肝や誠る やたしがや
※繰り返し

(訳) 神にも仏にも頼れない 畑も金網の中で銭にはならない 家は風で飛ばされて米軍物資を盗んで
担いできたらつかまって 大変な目に遭ったけど(沖縄人の)心だけは 汚れていなかった
※繰り返し

3. 泥ぬ中から 立ち上がてい 家内むとうみてい 妻とうめてい 産子ん生まりてい 毎年産し
次男 三男 ちんなんびー あわりぬ中にん わらんちやが 笑い声聞ち 肝とうめーてい
※繰り返し

(訳) 廢墟も中から 立ち上がり 結婚して一家をかまえ 子宝にも恵まれ 年子つづき
次男 三男 ちんなんびー 苦難の道ではあれ 子ども達の 笑い声に 心を落ち着かせる
※繰り返し

4. 平和なていから 幾年か 子ぬちゃん まぎさなていをしが 射ーやんらったる やまししぬ
我が子思ゆる如に 潮水又とう んでい思れ 夜ぬゆながた 眼くふあゆさ
※繰り返し

(訳) 平和になって 幾年月 子供も成長した 鉄砲に撃たれた猪が 我が身を賭して子を庇う
その心情に自分を重ねると 涙がうかんできて 夜中に目が冴えて 寝られずにいる
※繰り返し

5. 我親喰えたる あぬ戦争 我島喰えたる あの艦砲 生まれ変わていん 忘らりゆみ

たーがあぬじゃま しーんじゃちゃら 恨でいん悔やでいん あきじゃらん 子孫末代 遺言さな
※繰り返し

(訳) 私の親を喰ったあの戦争 故郷の島も喰ったあの艦砲射撃 生まれ変わっても 忘れることができようか
誰があのようなことをし始めたのか 恨み悔やんでみても飽きたりはしない 子孫末代まで語り伝えよう
※繰り返し

第3, 4, 5回は海にまつわる様々な琉歌を紹介します。節をつけて現在も歌い継がれています。

第3回

●名護の大兼久 馬はらちいしやうしや 舟はらちいしやうしや 我浦泊

(なぐぬうふがにく うまはらちいしょうしゃ ふにはらちいしょうしゃ わうらどうまい)

訳：名護の兼久は馬を走らせ嬉しさあふれ、船を走らせ嬉しさあふれ ああ私たちの名護浦よ。

名護の町はずれの海岸に続いている砂地に兼久の地名があります。今では町名になっているほど繁栄していますが、昔は白砂青松の地で馬場があり、青年たちの乗馬の練習も盛んでした。また、名護湾に白帆の影を映して浮かぶ舟の眺めもよいところでした。陸に、海に、この素晴らしい雄大な景観を歌った琉歌です。大兼久節（うふがにくぶし）として歌われています。

・謝敷板干瀬に 打ちやい引く波の 謝敷めやらべの 目笑ひ齒莖

(じゃじちいたびしに うちやいふいくなみぬ じゃじちみやらびぬ みわれはぐち)

訳：謝敷の板干瀬に打ち寄せては引いてゆく白波のように謝敷の乙女たちの笑顔からこぼれる白い歯の美しさよ

本部半島の謝敷の村の乙女たちの笑顔からこぼれ落ちるような真白い歯並の美しさは、村の海岸に板を敷つめたように平らな珊瑚礁に打ち寄せる白波のようで、あたかも花が咲いたように泡の花を立てては引いていくように美しい。謝敷節（じゃじちぶし）として歌われています。

第4回

・すんねくり舟の 行きゆる渡海やれば けふや行き拜で 明日や来ゆすが

(すいんにくみふにぬ いちゆるとうけやりば きゆやんぢをうがでい あちやちゆしが)

訳：幅の狭い割り船で海に出て今日逢って明日には帰ってくる、何と気軽な渡海でしょう。(でも実際はそんなに簡単に愛しい人のところへは行けないのに。)

恋歌として解釈しました。離島に住む若者の恋の悩みです。島と島の間海は潮の流れが速く、手漕ぎのすいんにくり舟で渡るのは大変な苦勞でした。本田名節（むとうだなぶし）として歌われています。

・真福地のはいちやうや 嘉例なものさらめ いきめぐりめぐり 元につきやさ」

(まふくぢぬふえーちよーや かりなむぬさらみ いちみぐるみぐる むとうについちゃさ)

訳：ありがたい福地の杯は とても縁起のいいものであるよ 廻り廻って 元の人のもとに戻ったよ。

糸満市喜屋武の福地はその昔、南山王朝の唐船の船頭の出身地でした。出船祝いにはこの歌を合唱し

て航海の安全を願い祝いの座を催したそうです。先ず酒をカラカラーという瓶子に一杯入れ、早チョウという盃を添えて一座の中を回します。酒上戸の人は何回もついで飲み、なかなか隣に回さないの次の方は待ちかねて「ンダカラ」（ほら早く貸せ）と言って取り上げます。それでこの瓶子の事を俗にカラカラーと言います。また、旅の安全を念願して回す盃は、舟を意味していて早く回るようにとの願いから早盃（ハイマー）と名付け、それでハイチョウ（ふえーちょう）と言うようになりました。回し飲みしたハイチョウが元の人に返るのは、旅に出た人々が目出度く帰る事を意味しています。真福地のハイチョウ節（まふくぢぬふえーちょー）として歌われています。

第5回

●月の真昼間や やんさ潮の真干り夜の真夜中や 女童の潮時

月に願立てて 星に夜半参り 思い人我と 行逢しゆ給ぼり

思い人我と 行逢さんどうあらば あたら我が命 とうらばちやすが

(ついくいぬまびーろー一まややんさすーぬまふえりゆるぬまゆなみやみやらびぬすーどうぎい)

(ついくいにぐわんたてていふすいにやはんめりうむいすとうばんとういかしゆたぼり)

(うむいすとうばんとういかさんどうありばあたらばんがいぬちとうらばちやすが)

訳：月が皓々と輝き昼間のような冬の真夜中、引き潮が最も引き、今夜は普段はない道が引き潮の浜に現れて

人目を忍んで乙女が愛しい人に会いに出かける時が来たよ

月に願いをかけ、星の下の夜半参り、わたしの愛しいあの人にどうか逢わせてください

わたしの愛しいあの人に逢わせてくれないならばわたしは命を断ってしまいます、どうしますか

前回、恋人に会いにゆく男性の思いを歌った琉歌を紹介したので、女性の気持ちを歌ったものを紹介します。正確には琉歌ではなく八重山民謡の歌詞なのですが、女性の恋歌としてすぐにこの歌詞を思い浮かべたので紹介することにしました。基本的には琉歌と同じく6音と8音で構成されています。

・御舟の高艫に 白鳥がいちやうん白鳥やあらぬ 思姉おすぢ

(うにぬたかとうむに しらとうやがいちよん しらとうややあらん うみないうすいじ)

訳：船の屋形の艫に白鳥が止まっている。いやいや、あれは白鳥ではない。あれは航海の安全を祈り、私を守っている姉さんの霊なのだ。

沖縄には「をなり(ウナイ)信仰」がありました。沖縄に限らずヤマトウにもありましたが、沖縄は地域によっては現在も色濃く存在しています。ウナイ信仰は姉妹が持つ男の兄弟を守護する霊力を信仰するものです。

大洋に乗り出す航海のことを唐^{からたび}旅と言いましたが、唐旅には死出の旅の意味もあります。当時の航海が死と隣り合わせの過酷で危険なものであることが分かります。この歌のように唐旅(「御舟の高艫」で判断できます)に出た弟は姉から渡されたウミナイティーサージ(姉の手作りの手拭い)や髪の毛をお守りにして肌身に着け航海をしているはずですが、白鳥節として現在も歌われています。白鳥をシラトウイと言わずシラトウヤーというのは鳥を単に鳥としてみているのではなく魂を運んでくれる特別な生き

ものとして捉えているからなのです。過酷な唐旅を続ける船乗りにとって「おめなり(ウミナイ)」の霊力は大切なものでした。白鳥節(しらとうや一節)として歌われています。

海のフィールドワーク I

日時：2017年6月23日(金) 沖縄慰霊の日

場所：読谷村の戦争遺跡・海岸線、読谷村文化センター

行程：那覇市民会館—渡具知海岸(米軍上陸地)—艦砲ぬ喰え残さーの歌碑—チビチリガマ
—恨の碑—昼食—特設授業『海と暮らし』(講師：安里英子)—那覇市民会館

内容

沖縄本島中部の読谷村でのフィールドワークを実施した。読谷村の海岸では、約3000年前の遺跡が発見されており、古代から人々は海とともに暮らしてきた。また、この日は沖縄戦での組織的戦闘が終わったとされる日(慰霊の日)で72年前に米軍が上陸をした場所でもあった。

当日に向けて珊瑚舎スコーレの生徒たちは事前学習に取り組んだ。高等部の生徒は資料や証言を元に下見を重ねて当日の戦跡ガイドに挑戦した。高等部のガイドを受けた夜間中学校の生徒がその場で自身の戦争体験を語るという場面があった。

午後は沖縄の歴史・文化・民俗に詳しい講師の方をお招きして、人と海の関わりについての特別授業を行った。その授業の中では、講師が教材として穴のあいたシャコガイを提示した。どうして穴が開いているのか、と講師が問いかけると夜間中学校のある生徒が幼い頃に同様の穴をあけて貝を「養殖」し、必要なときに引き上げて食べたという経験を話した。その生徒は離島出身だが、人と海との暮らしについての共通するエピソードのやり取りがみられた。

以下、当日の生徒の感想を抜粋して紹介したい。

●とってもいい日になりました。いつもこの日(慰霊の日)は本島南部の島尻に行っています。チビチリガマは初めてでした。あるとき私は10歳。大変でした。ガイドの高等部の話に感心しました。(夜間中学校 生徒)

●今回慰霊の日にチビチリガマに行き、捕虜になることを拒み、「集団自決」をした方々が居たと知ってショックでした。私と同年の子どもたちもいたはずですが、珊瑚舎に来て、こうしたことをきちんと知ることができることは有難いです。(夜間中学校 生徒)

●高等部の生徒たちは、読谷の生徒かと思うほどあちこちを回って説明してくれた。英子先生はたくさん資料を用意してくれた。熱心に勉強されたことを教えてくれてありがとうございます。また恨の碑では朝鮮半島の方々が沖縄でこんなに苦労していたということをはじめて知りました。慰



慰霊の日 特設授業 米軍上陸の浜



慰霊の日 特設授業 「海と人の暮らし」

霊のために毎年花を供えているという地元の方に感謝したいです。

(夜間中学校 生徒)

●6月23日は僕にとって当たり前にある日だった。でも今年は自分たちで準備して夜間中や初・中等部のみんなに話すということをはじめてやった。今までで一番慰霊の日を考えて自分が沖縄に生まれ育ったことを嬉しく思った。伝えていくことが義務だとか、そういうのではなくて自分がそのことについて感じる・考えることの歩みを止めないことが大切なのだと思います。沖縄を取り巻く環境に揺さぶられないためにも、前に進むことをやめちゃいけない、そう思った。(高等部 生徒)



海のフィールドワーク I の新聞記事

海のフィールドワーク II

日時： 2017年11月4日(土)

場所： 実施した浜 恩納村 屋嘉田潟原の浜

学習会 恩納村 ふれあい体験研修センター 学習室

行程：9時那覇市市民会館—10時ふれあい研修センター学習会—12時昼食—12時30分海の観察会—14時30分ふりかえりの時間—16時解散

講師： 鹿谷法一

内容

●ふれあい体験研修センターで約90分、生徒たちとのやりとりを交えながら事前学習を行った。沖縄は隆起珊瑚礁で成り立ち、今立っているところもかつては珊瑚だったこと、特にこの屋嘉田潟原は恩納岳に降った雨が地下水となり海にそそいでいる貴重な浜であることを説明してもらった。事前学習会の後、昼食をとり実際に海の観察を行った。この日はあいにくの天気時々小雨がふり気温が低かったが、2時間半ほどイノーの中を観察した。

海に下りていく途中の道にも生き物がおり、キバアマガイのように海水が苦手な貝、集団で暮らすヘリトリアオリガイやコバンザメのように岩にとりつくヒザラガイ(夜間中の生徒からヒザラガイは沖縄の言葉でクジマと言ひ、ゆがいた後上の殻を取り刺身にすると説明)など、イノーの手前にはシオマネキなどが住んでいる。浜に下りてすぐ学習したキバアマガイ、イソアワモチ、ヒザラガイ、絶滅危惧種のルリマダラシオマネキが見られた。イノーの中では海草の上だけに見られるキンランマキガイ(貝)、クロナマコ、ニセナマコ、オオイカリナマコ、クモヒトデ、アオヒトデ、シャコ、水字貝、クモ貝、タコヤソデガラップなどのカニ類の観察した。

イノー中には多様な生ものが暮らしている。モズクやアーサーなど海藻とアマモなどイネ科の海草(うみくさ)が生えており、海草は人間は食べられないがジュゴンやカメの食草になっている。(夜間中の生徒からカメは戦前戦後も貴重なタンパク源だった思い出が語られる)。巻貝とイモ貝の区別の仕方、よく見られるナマコの種類の見分け方(夜間中学の生徒がクモヒトデは潮が満ちてくる時に腕をふる)、

それを目当てにして沖から浜に戻った経験を話してくれた)、危険な生き物の説明ではよく知られたハブクラゲやオニヒトデ、アンボイナなど他にも初めて知るウミケムシやウモレオオギガニなどが紹介された。(夜間中学の生徒によれば、その中のスナギンチャクは以前は少なく、今のほうが増えているように感じるとのこと。海の汚れが関係しているのではないかと話す)。

観察会に参加した夜間中学の生徒の声から

- ・沖縄に生まれ育ったが、こうして観察するのは初めてだった。沖縄の海が豊かなことを改めて知った。ナマコはナマコと思っていたので、こんなに種類があるとは驚いた。砂をかけて日焼けを防いでいる(クロナマコ)とは、たいしたもんだ。
- ・長年疑問だったシャコガイの生体が講師の先生の説明で、納得がいった。
- ・自分が子ども時代に知っていた海に比べると食べられる貝が減っている。それは海岸がコンクリートで埋め立てられ、生き物が生きられないようになっているのではないか。
- ・先生の説明が分かりやすく、今までは食べられるものしか興味がなかったが、アマモなど大切なものがあるんだと分かった。

後日、このフィールドワークで興味を持ったことをハガキに描いてもらった。観察会の中で夜間中学の生徒がある貝について、「これは顔面神経痛に効くよ」というので、講師が後から調べたところキクザル科のカネツケザルで顔面神経痛に効能があることが分かった。講師の方も初めて知ったとのことでした。



事前学習



潮の引いたイノーで観察



イソアワモチの観察



初等部の生徒に説明する夜間中学校の生徒



観察後の学習 熱心！



後日夜間中学校の生徒が書いた葉書

*連携と交流

2017年8月25日、海洋教育パイオニアスクールプログラムで連携する東大教育学部附属中学校、宮古島市立池間小中学校、珊瑚舎スコーレ夜間中学校の3校が珊瑚舎スコーレに集まり、学習報告会を開き交流を深めました。東大附属学校からは3、4年生（中学3年生と高校1年生）24名、池間中学校からは生徒全員の11名、珊瑚舎スコーレ夜間中学の生徒14名が参加しました。環境、年齢も異なる初対面同士で緊張もしたようですが、お互いの学校紹介や学習内容を知るにつれ親しくなり、あっという間の3時間でした。開会の前の夕食タイムではお弁当を食べながらゆんたく（お喋り）しました。夜間中学の生徒が作ってきた沖縄料理のおかずが好評でした。夜間中学校を代表して2名の生徒が4月からの授業やフィールドワークを中心に学んだことを発表しました。

池間中学校は、伝統漁方アギヤー漁と防風林のアダンの木の利用方法をスライドで紹介してくれました。アビヤー漁とは追い込み漁のひとつで、設置した網に潮の流れと海底の地形を巧みに読み、魚を網に追い込む漁法です。今では漁師の高齢化に伴い廃れるのではないかという危機感があるようです。アダンについては、アダンの葉を使って芋をゆでるには葉がどのくらい必要かを実験したそうで、軽トラック2台分もの葉を集めるのがいかに大変だったかをユーモラスに語ってくれました。附属学校の生徒たちは各都道府県の海に関する様々なことを、歴史・地理・産業・伝統・信仰・祭りなどに分類し、その調査結果を日本列島の地図を使って説明してくれました。

珊瑚舎スコーレ夜間中学校の生徒の平均年齢は約78歳、多くの方々の子どもの時代は凄惨を極めた沖縄戦の戦中・戦後と重なります。県民の4人に1人が犠牲になったという沖縄戦を生き延びた生徒は自らを「カンポーノクヌクサー（艦砲射撃の空い残し）」だと言います。彼らにとっての海は「アメリカの戦艦が真っ黒に沖を埋め尽くしていた」、「海に浮かんでいる死体はみな白くてきれいで、ちょっと太っていた」、或いは学童疎開や南洋からの引き上げで辛い気持ちで見た海などで、記憶の中の海は現在の観光客に人気の沖縄の海とはかけ離れたものです。

また、沖縄に「イトマンウイ（糸満売り）」という言葉があります。糸満は地名で、ウミンチュ（海人＝漁師）の町として知られています。「つらい思い出ばかりで海を見るのも厭だ。釣りの話を聞くのさえ厭だ」という生徒がいます。戦後の混乱と貧困のため親から網元の家に身売りされた経験を持つ方々です。「イトマンウイ」は琉球王朝時代からあったと言われていますが、明治に入って盛んになりました。身

売り先も糸満とは限りませんでした。また、グループディスカッションでは発表をもとに沖縄戦での体験や八、八、八、六の30音で詠われる琉歌などについて説明しました。東京から来た生徒、池間島の生徒から様々な質問を受け、夜間中学校の生徒の皆さんは「とても幸せ」な時間を作って頂いたと感謝していました。



お弁当タイム



東大付属の生徒がダンスを披露してくれました



夜間中学校生徒の発表



記念撮影 みんないい顔してます



池間中学校生徒の発表



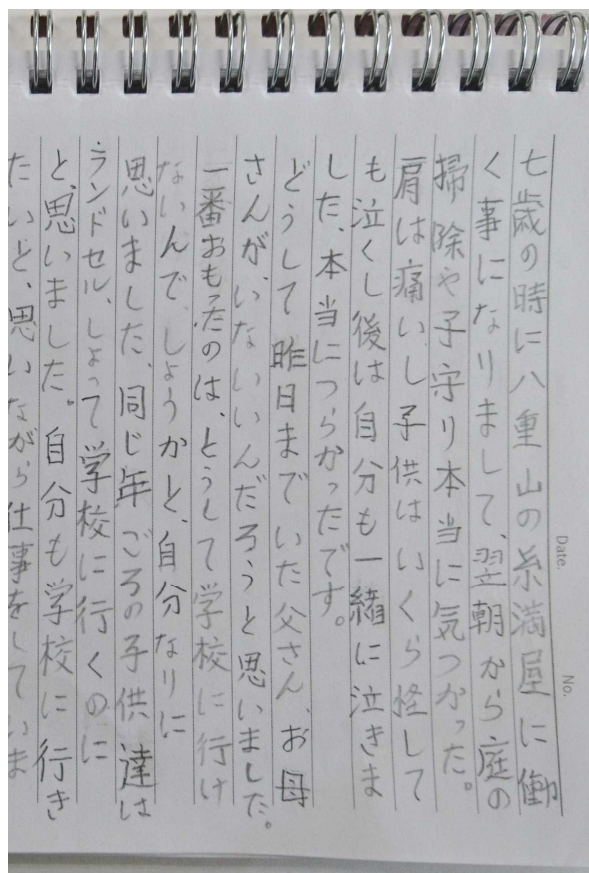
東大附属中等学校の生徒の発表



交流会の様子を伝える地元の新聞

***成果と課題**

「自分が知っていた海とはちがった海があることを勉強しました。」「海はひろいな、おおきいなという歌があります。あれは大きさだけじゃなくて、いろんな意味で海は大きなものなんだと言っている」と言う生徒の感想があります。沖縄県は小さな県で面積は下から4番目ですが、海岸線の長さは上から4番目です。それほどに海に囲まれているのですが、夜間中学校の生徒のみなさんの殆どは海を身近には感じていません。夜間中学校の生徒は「海ノート」を書いています。日常生活ではあまり意識していない「海を意識するためのノート」です。今回のプロジェクトで海に関心を向けることができたと思います。今後はさらに、「豊穰と祈りの海」という切り口で昼の部(初等部・中等部・高等部)の生徒とともに授業やフィールドワークを実施したいと考えています。



海ノート(誤字脱字などはそのままです)

	自	除		き	ま	七						
海	分	終	仕	辛	し	歳	私					
人	も	わ	事	い	た	の	は					
と	一	る	は	事		時	宮					三
し	緒	と	な	も	そ	に	古					つ
て	に		に	も	れ	石	島					の
こ	泣	子	す	楽	か	垣	で					夢
れ	く	も	る	し	が	島	生					
が	時	り	か	い	う	の	ま					
う	も	し	と	こ	海	糸	れ					
營	あ	た	い	と	人	満	六					
り	り	り	う	も	と	屋	歳			三		
の	ま		と	あ	し	に	ま			年		
訓	し	子		り	十	働	で					
練	た	供	朝	ま	三	き	す					
本		も	起	し	年	に	ご					
当		が	き	た	間	行	し					
に		泣	て		毎	か	ま					
厳		く	庭		日	さ	し					
し		と	掃		働	れ	た					

海ノートを参考に書かれた「文章による自画像」
3月の朗読会で朗読されました。

***年間活動終了後の生徒の感想**

- ・初めに「海と人との関わり」を勉強すると聞いてもピンとこなかった。海はすぐそこにあるし、魚をとったり海藻をとったりすることのほかに勉強することがあるのだろうかと思っていた。琉歌もそういうのがあると知っていたがどんなものかは知らなかった。海のことを詠んだ琉歌の勉強をして、戦争前、後の沖縄の生活が分かった。貧乏だったけど楽しみもあったことが分かった。「スイミー」や夏にみた「海の子どたち」の劇もそうだったし、慰霊の日のごとも、よく考えると海とつながっていた。

- 琉歌の潮汲みをする歌が好きになりました。私は潮汲みをしたことはありませんが、子どものころに井戸の水汲みはイヤというほどしました。小学校に行く前の、帰ってからの日課でした。重くてきつい仕事でした。家族のために水をくむのは同じですが、こんなに家族を思う歌をつくるとは感心しました。
- 1年間 沖縄の歴史や土地のことを勉強しました。アメリカ軍が上陸した浜に行きました。チビチリガマにも行きました。はじめてセリフのない劇をみました。夏には東京の子どもたち、宮古の子どもたちに会いました。みんなとても勉強していて、こっちが勉強になりました。踊りも楽しかったです。沖縄にいるのに海の観察会で、知らなかったいろんなことを勉強しました。「海はひろいな、おおきいな」という歌があります。あれは大きさだけじゃなくて、いろんな意味で海は大きなものなんだと言っているのだろうと、この1年間の勉強で思いました。
- 私は離島出身なので、子どものころ生活が苦しくて野山や海に毎日のように食べるものを探しに行きました。口にできそうなものはなんでも食べました。海にはなにかしら食べるものがありました。だから朝、昼、晩のごはんを詠んだ琉歌は心にずしんときました。戦争の後すぐ生まれたので、戦争のことはよくわかっていません。でも、今年「スイミー」や劇や慰霊の日の勉強をやって、弱いものが力を合わせて生きていくことを勉強しました。「海の観察会」は久しぶりの海で楽しかったです。案内してくれる先生の説明も分かりやすく、知らなかったこともたくさんあり、さすが先生だなと思いました。
- 慰霊の日が一番心に残りました。アメリカ軍が上陸した浜は今はいきれいな青い海です。子どものころ艦砲射撃が激しく、ガマから出られない日を昔の事だと思ってきましたが、チビチリガマが沖縄の若い子たちに荒らされたことをしり、昔のことにしてはいけなと思いました。慰霊の日には珊瑚舎スクーレの昼の生徒さんがていねいに教えてくれて、あの戦争の自分が知らなかったことを教えてもらいました。これからは戦争時分の自分のことを若い人に話していくべきだと思いました。
- 沖縄の歴史を勉強しました。沖縄は昔から中国やベトナムなどつきあいがあったこと。海をわたっていたのです。そのことが沖縄の祭りに残っているそうです。自慢していいことだと思いました。
- 7歳で海人（ウミンチュ 漁師）として売られました。20歳になるまで素潜り漁などをしてきました。年季が明けた時、文字の読み書きができませんでした。夜間中学校に入って、できるようになりました。海はもうたくさんという気持ち強いので、今年「海と人との関わり」を勉強すると聞いた時は、気乗りしませんでした。でも、沖縄の歴史や土地のこと、日本語（国語）で勉強したこと、琉歌の勉強、東京や宮古の子どもたちとやった発表会など、この1年本当にいろんなことを勉強したんだと今思っています。自分が知っていた海とはちがった海があることを勉強しました。
- 沖縄生まれですが、海には行ったことがありません。戦争の時に海からすごい艦砲があったこと、台風のことなどあり、近寄りたくないです。でも、学校の勉強というので初めて恩納の「海の観察会」に行きました。寒い日でしたが、海の中にいろんな生き物がいてびっくりしました。先生が手にとって教えてくれないと気がつかないカニ、貝がいました。そんな海が少なくなっているのだそうです。

さびしいです。次は晴れた日の海に行ってみたいです。

以上

珊瑚舎スコーレ夜間中学校 1, 2, 3 年生 「境界(地域、文化、世代、学校種)を越えた海洋教育連携カリキュラム・デザイン」

【実践のねらい】学校で学ぶ喜びとはクラスメートとともに「知ること、考えること、表現すること、交流すること」により自身の変容を手にする喜びであると考えています。今回のプロジェクトは生徒にとって学校で学ぶということとはあまり結びつかない「海」が「目から鱗が落ちる」ような学びの体験となるに違いないと考え、プログラムを作りました。

字数 4月～2月 46時間(日本語(国語)科 24時間 社会科 10時間 総合的な学習の時間 22時間)

関連 日本語(国語) 社会 理科 目標 ストリートマップ内に書き込み

連携
東大付属中等学校
宮古島市池間小中学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
社会科	<p>目標</p> <p>学ぶことは自己の欠落に気付きそれを補おうとする営みでもある。その営みが教育の目的である人間の変容をもたらす。「海」もそのための教材としてその可能性は大きい。その可能性を知る第一歩となるような時間を作りたい。</p>					<p>「海と沖縄」1, 2, 3 年生</p> <p>自然と文化 4時間</p> <p>琉球の歴史 6時間</p> <p>1回2時間(100分)</p> <p>9月1回 10月2回 11月2回</p>						
日本語(国語)科	<ul style="list-style-type: none"> ・「貝殻」を読む 2年生 3時間(4月) ・「スイミー」を読む 1年生 8時間(6月) ・「字のないはがき」を読む 3年生 2時間(7月) ・演劇鑑賞と感想発表 1, 2, 3 年生(7月) ・琉歌講座 1, 2, 3, 4, 5 回 (各 100分) <p style="text-align: right;">1, 2, 3 年生 (5, 6, 7, 8月)</p>										<p>3月2日 朗読会</p> <p>「海ノート」を参考にして書いた「文章による自画像」の朗読(3年生)</p> <p>※全員が海ノートを参考を書くことはしてません。</p>	
フィールドワークなど	海ノート(5月～)											
	<p>海のフィールドワーク I</p> <p style="text-align: center;">6月23日</p> <p>初等・中等・高等部と合同</p>			<p>3校交流会 8月25日</p> <p style="text-align: center;">(珊瑚舎スコーレ)</p>			<p>海のフィールドワーク II</p> <p style="text-align: center;">11月4日</p> <p>初等・中等・高等部と合同</p>			<p>2月3, 4日全国報告会(東京)</p> <p>3月17日3校報告会(東京)</p> <p style="text-align: center;">(生徒は参加せず)</p>		